

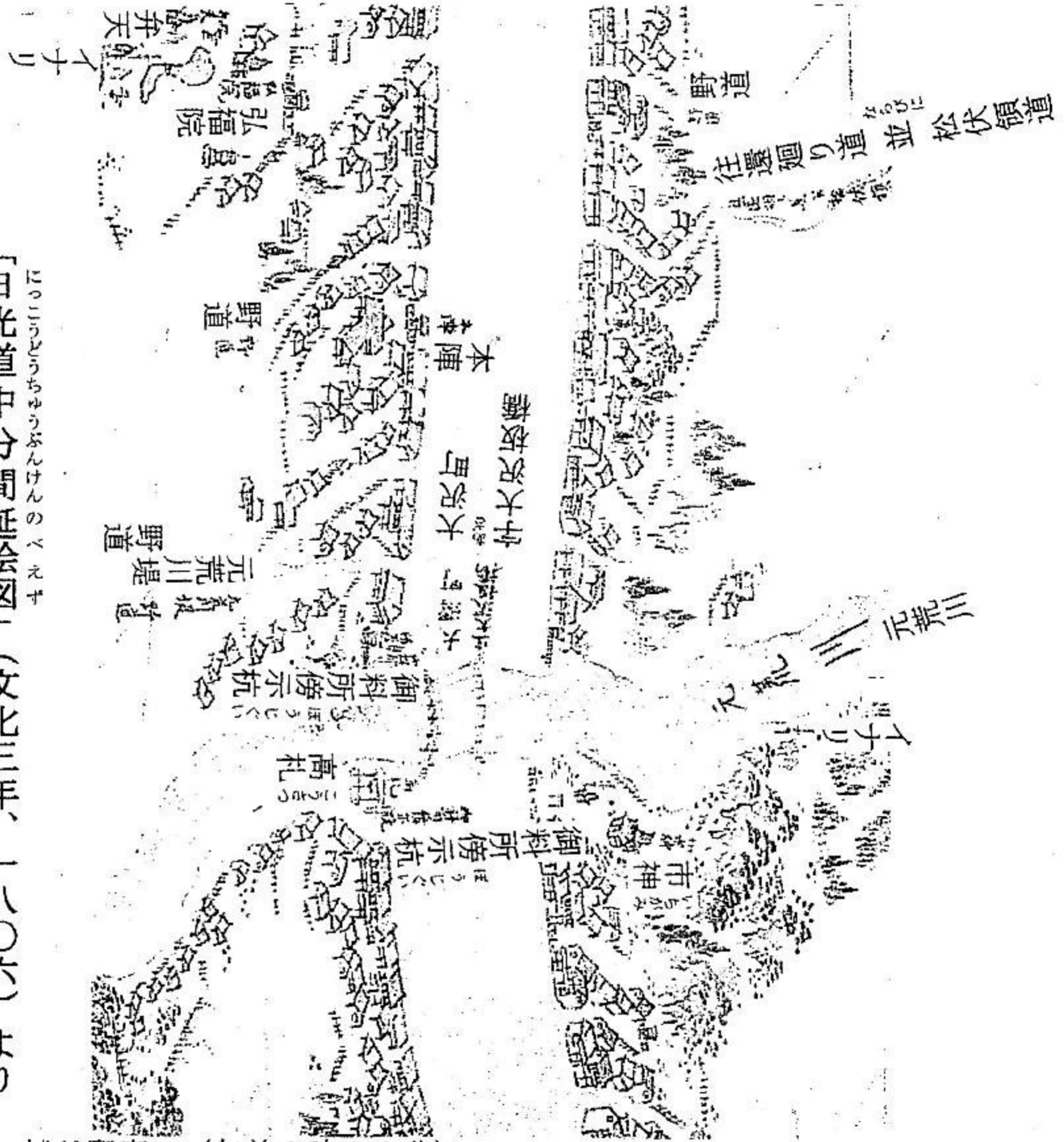
平成22年5月30日(日)

越谷市郷土研究会創立45周年記念

第404回史跡めぐり

越谷入門「日光道中・裏道めぐり」

裏道も歩かないと「越谷」のことは分からない!



日光道中分間延絵図 (文化三年、一八〇六) より

集合 越谷駅東口 (午前8時30分)

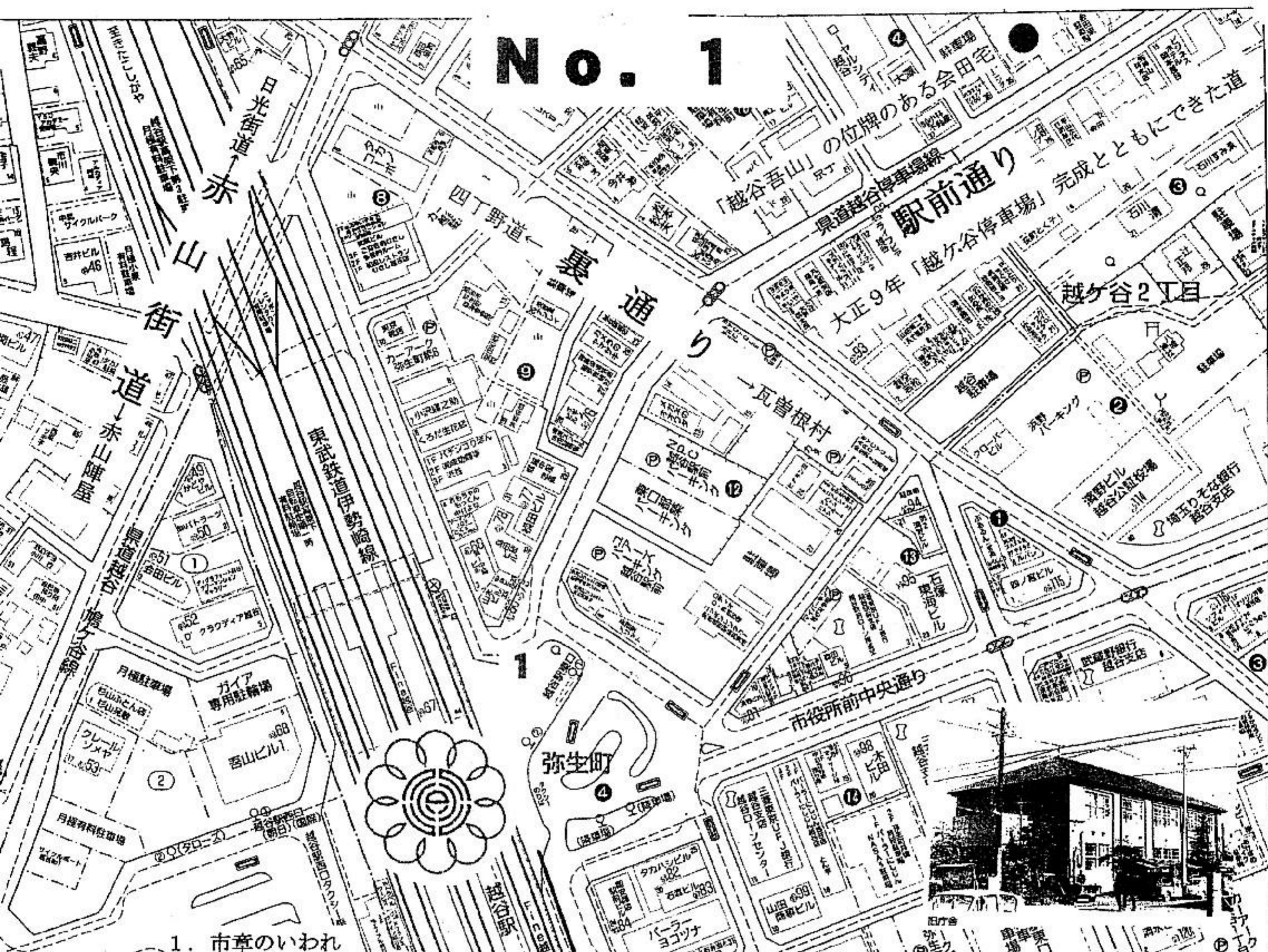
コース (徒歩約4km)

- 越谷駅—最初の市役所跡地—日光道中 (日光街道)・不動尊道しるべ石—日光道中裏道—新町八幡神社—日光道中—観音横丁と道しるべ—日光道中—越谷御殿道—「興亜の桜」碑—大沢宿旅籠あと—照光院 (本陣の福井家墓など)
- 天神前土橋跡地—かつての元荒川流路—大沢の香取神社 (明治の水準点)
- 北越谷駅 (12時半頃解散)

案内者 上野 勉・加藤幸一・中村幸夫・藤川吉洋・宮川 進

NPO法人越谷市郷土研究会

No. 1



1. 市章のいわれ

- ◇周りの10個の輪は、昭和29年11月3日に合併した十町村である二町八ヶ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。
十町村とは、越ヶ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・荻島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。
- ◇中央部周りのデザインは、カタカナの「コ」を4個集めたもの。つまり、越谷の「越」（「コ4」）を意味する。
- ◇中心部のデザインは越谷の「谷」の文字を図案化したものである。
- ◇昭和30年11月3日には、草加町に合併していた川柳村のうち、伊原、麦塚、上谷が越谷町に入る。
- ◇越谷町は、昭和33年11月3日に市に昇格し、越谷市となる。

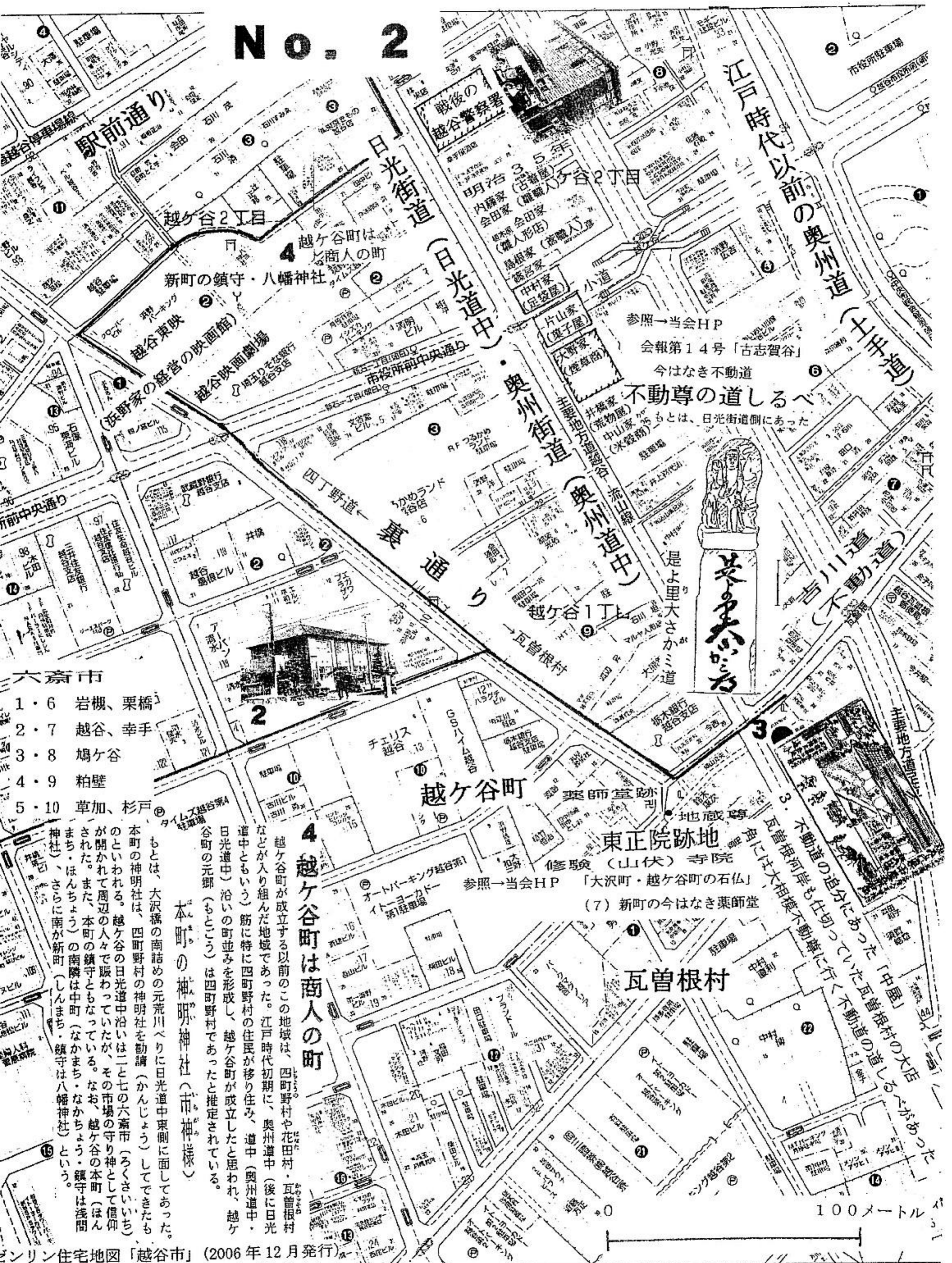
2. 旧市役所

（昭和30年完成の昭和29年町村合併後の町役場、越ヶ谷町柳田、越谷町越ヶ谷1丁目1番地・昭和33年の最初の市役所）



参照→当会HP 市民文化祭 第40回
越谷地域の町村の変遷





- 六斎市
- 1・6 岩槻、栗橋
 - 2・7 越谷、幸手
 - 3・8 鳩ヶ谷
 - 4・9 粕壁
 - 5・10 草加、杉戸

4 越ヶ谷町は商人の町

越ヶ谷町が成立する以前のこの地域は、四町野村や花田村・瓦曾根村などが入り組んだ地域であった。江戸時代初期に、奥州道中（後に日光道中ともいう）筋に特に四町野村の住民が移り住み、道中（奥州道中・日光道中）沿いの町並みを形成し、越ヶ谷町が成立したと思われる。越ヶ谷町の元郷（もとこう）は四町野村であったと推定されている。

本町の神明神社（市神様）

もとは、大沢橋の南詰めの元荒川べりに日光道中東側に面してあった。本町の神明社は、四町野村の神明社を勧請（かんじょう）してできたものといわれる。越ヶ谷の日光道中沿いは二と七の六斎市（ろくさいいち）が開かれて周辺の人々で賑わっていたが、その市場の守り神として信仰された。また、本町の鎮守ともなっている。なお、越ヶ谷の本町（ほんまち・ほんちよう）の南隣は中町（なかつまち・なかつちよう・鎮守は浅間神社）、さらに南が新町（しんまち・鎮守は八幡神社）という。

参照→当会HP
会報第14号「古志賀谷」
今はなき不動道
不動尊の道しるべ
もとは、日光街道側にあった



是より大さかみ道

越ヶ谷町

東正院跡地

修験（山伏）寺院
参考→当会HP 「大沢町・越ヶ谷町の石仏」
(7) 新町の今はなき薬師堂

瓦曾根村

100メートル



本町

越ヶ谷5丁目

中町の鎮守
浅間神社

中町

日光街道

5-2
赤山街道

赤山領赤山（現在の川口市赤山）まで通じる街道。
赤山には、関東を治める関東郡代伊奈氏の赤山陣屋があり、陣屋までの宿（しゆく）継ぎで販わった。
街道名は、赤山陣屋に由来する。

市立越ヶ谷小学校

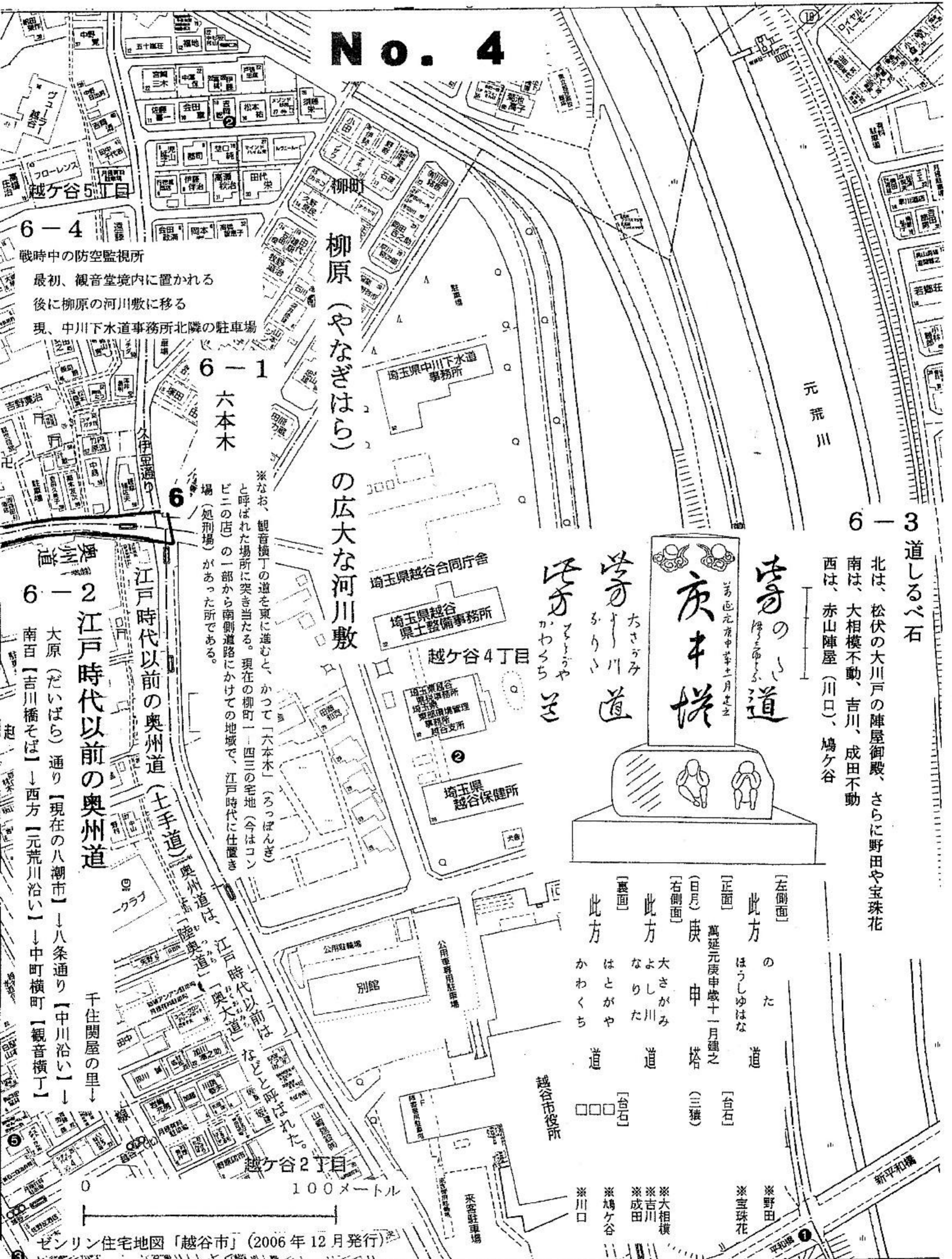
3 土手道（古道）に建っていたと
思われる貴重な道しるべ石は、
6 現在、箕輪家敷地内にて保管されて
いる

5-1
平田篤胤の門人、多大の援助をする
土蔵
うなぎの寝床
山崎長右衛門（「油長」）
越ヶ谷3丁目

新町

越ヶ谷2丁目

No. 4



戦時中の防空監視所
 最初、観音堂境内に置かれる
 後に柳原の河川敷に移る
 現、中川下水道事務所北隣の駐車場

柳原(やなぎはら)の広大な河川敷

6-1 六本木

※なお、観音横丁の道を東に進むと、かつて「六本木」(ろっぽんぎ)と呼ばれた場所に突き当たる。現在の柳町一四三の宅地(今はコンビニの店)の一部から南側道路にかけての地域で、江戸時代に仕置き場(処刑場)があった所である。

江戸時代以前の奥州道(土手道)
 江戸時代以前の奥州道(土手道)は、陸奥道(奥州道)とよばれる。千住関屋の里

大原(だいはら)通り【現在の八潮市】→八条通り【中川沿い】→南百【吉川橋そば】→西方【元荒川沿い】→中町横町【観音横丁】

3道しるべ石
 北は、松伏の大川戸の陣屋御殿、さらに野田や宝珠花
 南は、大相模不動、吉川、成田不動
 西は、赤山陣屋(川口)、鳩ヶ谷



「左側面」
 此方 のた 道
 ほうしゆはな
 「正面」
 萬延元庚申歳十一月建之
 申 塔 (三猿)
 「右側面」
 此方 大きがみ 道
 よし川
 なりた
 「裏面」
 此方 大きがみ 道
 はとがや
 かわくち

「台石」
 ※大相模
 ※吉川
 ※成田
 ※鳩ヶ谷
 ※川口
 ※野田
 ※宝珠花
 新平和橋

参照→当会HP 会報第14号「古志賀谷」

東武劇場再現図始末記

越ヶ谷・大沢娛樂の殿堂東武劇場

8-2 東武劇場

大正14年1月元旦に落成した。
娛樂の殿堂として越谷町民に親しまれた。
越谷市に昇格する前年の昭和32年8月、
残念ながら焼失する。

7-3

大沢町は旅籠屋の町

大沢町は越ヶ谷町と合わせて越ヶ谷宿と呼ぶ。
大沢町には旅籠が多くみられ、日光方面から、
上宿・中宿・下宿、それに地蔵橋とにわかれる。

江戸時代の飯盛り旅籠、戦前戦後の新地料理店
大沢町の奥州海道(日光海道)沿いの町並みは、江戸時代の初期に主に
鷺後(さきしろ)や高畑(たかばたけ)の地域からの住民が移り住んででき
たものである。特に高畑では多くの住民が海道筋に移転したため、ほと
んどの屋敷が空き家になってしまい、高畑の集落跡は畑地に開発された
という。そのため高畑の地域は「高畑新田」とも呼ばれるようになった。

7-1 「越ヶ谷御殿」跡地

將軍(徳川家康)が
鷹狩の時に立ち寄った御殿

7-2

元荒川橋の南詰め側(越ヶ谷側)
の西側土手にある。紀元二千六百年
を記念して、宮前橋そばの御殿町か
ら東武鉄道橋あたりまで、桜を植え
たことを後世に残すための記念碑で
ある。昭和十五年に建立された。
元荒川南岸の御殿町あたりから、
東武鉄道の鉄橋あたりまで興亜の桜
並木が見られた。元荒川橋南詰めの
東側の土手に、現在でもその名残が
わずかに見られる。

市神(神明)神社跡地

高札場跡地

越ヶ谷本町

名主・問屋
江沢家

福井家本陣

昭和30年代の大沢町

100メートル

13 北越谷駅の歴史

明治32年(1899)、北千住・久喜の間に東武鉄道が開業する。

北千住、西新井、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、久喜の7停車場(駅)である。

越ヶ谷停車場は、現在の北越谷駅にできた。

明治41年(1908)、宮内省の鴨場が大林にできると、皇族方が御料列車に乗って越ヶ谷駅(現在の北越谷駅)に来るようになる。

大正9年(1920)に、現在の越ヶ谷駅の場所に越ヶ谷駅が出来ると、

今までの越ヶ谷駅は武州大沢駅と改称する。

昭和31年(1956)に、武州大沢駅は、北越谷駅と改称する。

なお、越ヶ谷駅は、ヶを取って越谷駅となる。

参照→当会HP 東武鉄道武州大沢から北越谷へ



12 大沢香取神社

大沢町の鎮守である香取神社は、江戸時代初期に大沢の宿場町の成立にともない、寛永年間に鶴後の香取神社を勧請(かんじょう)してできたものと伝えられている。
なお、興殿の四面の外壁に施された彫刻は、紺屋の労働作業の有り様(北面)などが表されていて貴重な民俗資料ともなり、越谷市の文化財に指定されている。
また、拝殿の東隣にある八坂神社の祠は、毎年七月の第二土日(古くは十四・十五日)に行われる大沢の天王祭りのご神体を祭っている。

大正2年に移転してきた天神社の鳥居と明治の「几号(きごう)水準点」

参照→当会HP 大沢香取神社の二之鳥居にある「天満宮」の扁額の謎

10 かつての元荒川の流路

かつては、荒川(現在の元荒川)はこの地(天神前橋)から東の大沢七つ池を通って流れていたと推定されている。
照光院は自然堤防の上に建っていて、天神前橋が一番低い所として元荒川のかつての流域としての名残がみられる。

9 照光院

照光院は、一番の西新井大師(足立区西新井)から始まる新四国八十八箇所の中の二つで二十八番にあたる。大沢小学校創設の地でもある。鐘撞き堂周囲の無縁仏墓塔の中には、江戸時代の大沢町の飯盛り女の墓塔が混じっているという。また、越ヶ谷宿の本陣(大名などが泊まる幕府公認の旅籠)を代々勤めた大松屋福井家の墓所がある。

福井猷貞は、明和六年(一七六九)の生まれで、文政五年(一八二二)に病没する。大沢と越ヶ谷の郷土の地誌である『大沢猫の爪(つめ)』と『越ヶ谷瓜(うり)の蔓(つる)』を編纂する。江戸時代の越ヶ谷、大沢の様子を知る上で大変貴重な資料である。これらを含む猷貞の書き記した福井家文書は、「本陣資料一括」として越谷市の文化財に指定されている。

なお、日光道中新に面していた大松屋福井家(大沢一三二二六)は、安永九年(一七八〇)以降に本陣(大名などが泊まる幕府公認の旅籠)を代々勤めた家柄であった。

福井猷貞の墓塔

福井猷貞の墓塔
福井猷貞 墓塔
福井猷貞 墓塔